

令和5年度事業報告書

当財団は令和2年4月1日より正式に財団としての活動を開始し、4ケ年を経過しました。

当財団定款第4条には、事業として下記の7項が規定されています。

- (1) 八戸高専卒業生が八戸高専産業技術振興会会員に再就職する時の支援
- (2) 八戸高専産業技術振興会会員へのインターンシップ及び就職希望者の支援
- (3) 八戸高専学生が海外研修する場合の支援
- (4) 八戸高専が海外から受け入れる留学生への支援
- (5) 八戸高専が受託する研究委託の中継ぎ
- (6) 青森県中学校等の科学技術教育等に貢献した者若しくは学校の顕彰
- (7) その他、八戸高専における教育・研究等の支援

以下、各事業についてご報告します。

- (1) 八戸高専卒業生が八戸高専産業技術振興会会員に再就職する時の支援
- (2) 八戸高専産業技術振興会会員へのインターンシップ及び就職希望者の支援

- 当該事業周知のためリーフレットを送付
送付対象者:満年齢60歳以下および住所が判明している八戸高専卒業生
送付人数:3,901名
 - 再就職希望者からの相談
相談人数:12名(令和4年度は11名)
相談者内訳:現役大学生1名、民間企業・官公庁勤務12名(うち1名は退職済)
就職状況:再就職者3名、退職・Uターン就職を断念9名
就職先:八戸市2名、宮城県1名
 - ① 東北電力(八戸市、子会社の東北緑化環境保全に就職)
 - ② 株式会社マルヌシ(八戸市。食品系企業への就職希望。日本食品分析センター等5社を紹介)
 - ③ 東北プレス工業株式会社(宮城県大崎市。青森県内企業への再就職は拒否)
- その他の:再就職を断念した理由は以下のとおり
- 八戸市進出企業から面談希望があったが、自身で再就職先を決定し既に勤務していた
 - 遠距離通勤になる(八戸市→三沢市)
 - 給与等の待遇が低い
 - 比較的待遇が良いと考えられる企業の当地域での求人がなかった

➤ LINE 公式アカウント開設

令和6年1月から、当財団事務局と八戸高専卒業生との間の情報交換を迅速化することを目的として、LINEでの相談を開始し、就職相談、Uターン相談が増加しつつあります。

(3) 八戸高専学生が海外研修する場合の支援

「八戸高専学生海外研修奨励金規則」により、優れた学生に対し奨励金として25万円を限度に支援しました。

支援人数:3名(一般支援1名、国際的エンジニア育成制度にかかる支援2名)

支援金合計:約63万円

派遣先:シンガポール・テマセクポリテクニク

(4) 八戸高専が海外から受け入れる留学生への支援

八戸高専におけるグローバルエンジニア育成を目標とした国際化教育の一環としての国際交流活動における、海外からの留学生、訪問者等へ、「八戸工業高等専門学校受入れ留学生等の支援にかかる指針」により支援しました。

支援回数:4回(留学生等との昼食会、懇談会、バス遠足等)

支援金合計:約10万円

(5) 八戸高専が受託する研究委託の中継ぎ

- 八戸市及び三戸郡の企業を訪問し、当財団の事業内容を説明するとともに、抱えている課題のヒアリングを行いました。主として新規設備の導入に関する相談がほとんどで八戸高専での研究実施に結びつく課題はありませんでした。
- 八戸高専における実験装置の製作を依頼できる企業について、相手先企業の確認を得ることができました。
- 八戸高専の元教授が開発したキャンピングカー製作を行うことのできる企業について、八戸市内の複数の企業を訪問し、その可能性を探りましたが、いずれも市場性がないこと等を理由に進出は無理であるとの回答でした。
(大型トラックの改造によるキャンピングカー製作であったが、軽自動車改造によるキャンピングカー製作は盛んであり、八戸市内および階上町の2社が事業を行っています。)

(6) 青森県中学校等の科学技術教育等に貢献した者若しくは学校の顕彰

「科学技術教育顕彰規程」により、北東北における科学技術教育または理科教育の発展のために、中学校等の教育機関において独創性と発展性に富む実績をあげた優秀な個人、学校または団体を表彰し、10万円を贈呈しました。

受賞者:大鰐町立大鰐中学校 教頭 鳴海 博史 氏

候補者の推薦:青森県及び岩手県北地域の教育事務所管轄下の中学校長に候補者の推薦を依頼

選考委員会:令和6年1月13日(土)、八戸工業高等専門学校にて開催

表彰式:令和6年3月6日(水)、八戸工業高等専門学校にて開催

(7) その他、八戸高専における教育・研究等の支援

「八戸工業高等専門学校の会議費支出支援にかかる指針」により、公開講座、出前授業、体験入学、メカnoワールド、化学の学校、高専祭等、合計13回の行事に約53万円を支援しました。